

## 会議結果報告書

### 1 会議の名称

令和6年度第3回光市子ども・子育て審議会

### 2 開催日時

令和6年12月26日（木）14時00分から15時30分

### 3 開催場所

光市総合福祉センター あいぱく光 1階 いきいきホール

### 4 出席人数

委員18人中12人出席、事務局10人出席

### 5 公開・非公開の別

公開

### 6 会議の議事録（要旨）

#### （1）開会

#### （2）会長あいさつ

#### （3）議事

#### ア 第2期光市子ども・子育て支援事業計画の令和5年実績等について

配布資料1―1、1―2で説明

#### 【質疑・意見等（要旨）】

##### （委員）

ファミリーサポートセンターの実績が令和4年度から倍近く増えていますが、前回の説明でLINEを活用したりというのがあったので、それが理由なののでしょうか。なかなか実績が上がらないところだと思うのですが、他に理由があるのかお聞きしたいと思います。

##### （事務局）

令和4年度が243件とご説明いたしましたが、倍近く増えた一番の原因は、新型コロナウイルス感染症の影響と思われます。令和5年の途中から5類感染症となったことで利用が増えたと考えます。

##### （委員）

協力会員は十分におられたということでしょうか。

##### （事務局）

実際に活動をしていただける人数は20～30人程度であります。現在はなんとか運営できていると思いますが、協力会員を大募集しているところです。

(事務局)

補足します。実績が倍近く増えた理由としては、他にも、その年によって、人それぞれ利用ニーズが違ってきますので、令和5年度では、週に何回も送迎を利用される方が多かったという傾向もあります。それから、平日の送迎を希望される場合は、それに対応できないと活動できませんので、決して協力会員が少ない訳ではなく、実働できる方が30人程度であるということです。

(委員)

参考資料の入所率の状況のところで、「入所児童数」は分かりますが、「児童数」とは何の数字なのでしょう。

(事務局)

「児童数」は、各月末の満1歳から3歳までの児童数となっています。

(委員)

それでは、令和6年10月のところで、0歳児の「児童数」が262人というのは、光市内の0歳児の数ということでしょうか。

(事務局)

そういうことです。

(委員)

資料の1—2の評価指標、「3地域とともに未来へ向かう」の「⑥子育てに関する不安や悩みへの相談対応件数」が、平成30年と比べて2,000件程増えているのは、良いこととして考えるべきなのでしょう。というのが、相談しやすいので相談件数が増えたということなのか、それとも、悩みの質が変わってきているというところで受け止めるべきなのかお聞きします。

(事務局)

相談件数が増えたということが良しというわけではありませんが、相談する機会や相談の周知等といった環境が整備され、相談しやすい雰囲気づくりができてきたというところもあると思います。

(委員)

相談の質が変わってきたということは特にないでしょうか。子育てに対する不安など、コロナ禍であったわけですが、どうでしょうか。

(事務局)

相談の内容が複雑になってきていて、解決がなかなか難しいケースが増えてきているというのも事実ではあります。本当は少ない方がいいのかもしれませんが、相談の内容が難しくなっていることと、相談体制が整っているという二つの面から相談件数が増えたというのがあると思います。

(委員)

相談は、電話ですか、来庁されるのが多いですか。

(事務局)

電話もありますし、こちらから家庭訪問するというのもあります。

## イ 光市こども計画（素案）について

配布資料2で説明

### 【質疑・意見等（要旨）】

(委員)

最後に説明がありました、光市こども計画のこども向けパブリックコメントについてですが、表面は900人の小学生からのアンケート結果をまとめられて、こちらは、こどもたちもよく分かると思います。裏面の方は、取組1から4まで具体的なものがないので、小学生には分かりづらいかもしれないですが、中学生になるとそれを見て回答できるのではないのでしょうか。実際にこれを作成されて、29歳までの方が回答するようになっていますが、小中学生に回答依頼を呼びかけたり、チラシを配布したりされているのでしょうか。

(事務局)

こども向けパブリックコメントのチラシにつきましては、学校の協力をいただきまして市内の小学5年生6年生と中学生にお配りしております。それから、市内の2つの高校と周南公立大学にも対象の方に回答をいただきたいと依頼をしております。

(委員)

QRコードがあって、こどもたちが持っているタブレット端末で簡単に回答ができるのではないかと考えています。また、とても答えやすい内容だと思いますので、こどもたちの意見が反映できるのではないかと考えています。

(委員)

先ほど、こども向けパブリックコメントを周南公立大学の学生さんにも依頼したということですが、このこと以外でも何かありませんか？

(委員)

こども向けパブリックコメントの案内はあったと思います。こども計画の地域子ども・子育て支援事業の事業計画にある90ページの「親子関係形成支援事業」は、教育者という立場の人をターゲットにした事業なのか、子育てに不安を感じているその他のターゲットの人はいるのかお聞きしたいです。

(事務局)

「親子関係形成支援事業」につきましては、悩みや不安を抱えておられる保護者の方を対象に事業を展開して参りたいと考えています。

(委員)

自分自身は、中学生にバスケットボールの指導をしているのですが、自分が21歳で、教えているこどもたちが15歳なので6歳離れているのですが、そこでも考え方が全く違います。そこで今、部活動の地域移行が進んでいますが、指導者となる方に教育の立場の方が

らのセミナーをしていただくといいかなと思います。

(委員)

この事業はこれから具体化していきますので、こうした意見を踏まえまして取組を進めていただきたいと思います。

## 7 閉会